



平成27年度スーパーサイエンスハイスクール実施計画の概要【実践型】

指定期間 27～31	学校名 京都教育大学附属高等学校	所在地 京都府京都市伏見区 深草越後屋敷町111
これまでの指定期間	14～16(第1期), 17～21(第2期), 22～26(第3期), 19(特別枠), 20(重点枠), 23～24(コアSSH)	
学科名	生徒数	研究開発の実施規模
	1年 2年 3年 4年 計	全校生徒を対象に研究開発を実施する。
普通科	204 204 183 591	
研究開発課題名	科学技術イノベーション創出「kyo ² サイエンスプログラム」による人材育成	
研究開発の概要	I. 理科4領域融合の新科目「トータルサイエンス」を中心としたアクティブラーニング型教科連携教育課程の実践 II. サイエンスコミュニケーション活動の実践 III. 授業と連携しプログラム化した探究型課外活動SSCの実践	
研究開発の概略	<p>(1) 目的・目標 本研究は科学技術イノベーション創出のための人材育成を目的とし、イノベーションの芽を育むための「知識の融合」、イノベーションシステムを駆動させるための「他者との協働」、イノベーションを結実させるための新しい科学的な「価値の創造」を目指した「kyo²サイエンスプログラム」を開発し、実践ならびに汎用化する。</p> <p>(2) 現状の分析と研究の仮説 本校では探究活動中心のカリキュラム開発・実践、多種多様な探究型課外活動の実施のもと、多くの科学技術人材を育成するとともに、地域の科学教育力を高めてきた。一方、教科間の連携、授業と課外活動のリンク、および生徒の変容の検証・評価が十分とはいえなかった。そこで、次の3つの仮説を設定して研究開発を進める。 (i) 理科を中心とした教科連携のアクティブラーニング型教育課程の編成は、すべての生徒に対して科学的知識の融合と深化を進める。 (ii) サイエンスコミュニケーション活動の実践は、生徒のコミュニケーション能力・情報活用力を伸長し、他者との協働を強化させる。 (iii) 授業内容との連携を図った課外活動のプログラム化と課題研究を深化させる取組は、新しい科学的価値の創造を進める。</p> <p>(3) 研究開発の内容・実施方法・検証評価 京都教育大学との連携のもと「教育課程研究委員会」を組織し、理科4領域を融合した新科目「トータルサイエンス」をはじめ、教科連携型の教育課程を実践して「知識の融合」を進める。また、附属学校園において本校生全員がサイエンスコミュニケーション活動を実施する等、実践の場で「他者との協働」を進める。課題解決型外部コンテストの参加を評価の指標とし、参加を推進するために、探究型課外活動SSCを授業と連携させ、より多くの生徒に探究活動に取り組みさせて新しい科学的「価値の創造」を目指す。授業において積極的にパフォーマンス課題を取り入れ、授業者並びに生徒の自己評価を基に授業改善を行う。研究発表会等で参加者の外部評価を実施する。</p> <p>(4) 科学技術人材育成に関する取組内容・実施方法 探究活動を深化させるSSC活動において、「外部コンテストチャレンジコース」「科学技術イノベーションリーダー育成コース」等を設定し、授業と連携したプログラムを実践し、様々な科学的活動に取り組める環境を整備する。</p> <p>(6) 成果の普及 「サイエンスカフェ」の開催、教育実践研究集会での公開授業・研究発表、研究紀要での報告、レポート集の刊行、HPの掲載など。</p> <p>(7) 課題研究に係る取組 教育課程上に全学年「課題研究」を設定し、課題研究発表会を実施するとともにSSC活動において、「課題研究」をより深化させる取り組みを実施する。</p> <p>(8) 必要となる教育課程の特例等 数学・理科・家庭・情報に学校設定科目「数理基礎」「トータルサイエンス」「インフォメーションサイエンス」「ヒューマンライフサイエンス」を設置し、必修科目の代替とするとともに、「課題研究」「英語総合」を設置し「総合的な学習の時間」の代替とする。</p>	
その他特記事項	特になし。	

